公立鳥取環境大学第3期中期目標（素案）に係るパブリックコメント実施結果（実施期間：6/23～7/12）

＜対応の区分＞　反映する（◎）、既に盛込済（○）、その他（ー）

項番	区分	主な意見の概要	対応案	対応
1	教育	・大学で学ぶことができる分野（研究方向）をもう少し拡大してほしい。	・地域や学生のニーズを把握し、必要に応じて教育課程の編成の見直しを行うことを盛込済であり、引き続き取り組む。	○
2	教育	・SDGsの目標達成に貢献する人材育成の支援をしてほしい。 ・デジタル技術の価値を効果的に得ることができるDX人材の育成をしてほしい。	・SDGsの推進に貢献できるグリーン人材の育成について盛込済みであり、取組を推進する。 ・重要性を増すデジタル化への的確な対応について盛込済だが、具体的な取組としてデジタル人材の育成を明記する。	○ ◎
3	教育・就職	・大学のブランド力向上のため、よい教員の獲得や教員の能力向上に力を入れてほしい。 ・県内就職率の目標値が示されてよかった。大学の力だけでは難しいので、目標に書かれているとおり、関係機関等と連携して高い数値を実現してほしい。	・多様な人材の確保を行うとともに、教員の資質向上を図る取組の充実について盛込済であり、引き続き取り組む。 ・県内産業界等と連携した県内定着に向けた就職支援について盛込済であり、今後も関係団体等と協働して取り組む。	○
4	就職	・県内就職率30％としているが、県内に学生をとどめることに重きを置きすぎていると思う。県内外の数値に拘るより、就職支援は学生の希望に沿うことが重要である。	・入学から卒業まで、一貫した就職支援を行うための体制強化、教員と職員が一体となった適切な進路支援について盛り込み済みであり、今後も学生に寄り添った支援を継続する。	○
5	教育・広報	・個人の時代であり、多様な進路があっていいと思うので、進路支援においては若年層の需要を取り入れたほうが良い。 ・大学、ひいては鳥取県のブランド力を上げるプロモーションが必要ではないか。	・入学から卒業まで、一貫した就職支援を行うための体制強化、教員と職員が一体となった適切な進路支援について盛り込み済みであり、今後も学生に寄り添った支援を継続する。 ・特色ある教育や優れた研究成果などの強みや魅力を戦略的に発信し、大学のブランド力を向上させることについて盛込済であり、引き続き広報の強化に取り組んでいく。	○
6	教育	・学生の女性割合を増やす取組により、より一層社会で活躍する女性を増やすことを検討してほしい。	・多様な学生や研究者が安心して学修や研究に取り組むための支援や環境整備について盛込済であり、引き続き取り組んでいく。	○
7	教育・就職	・環境学部はまだしも、経営学部で地域の教育の拠点として活動を行うのは難しいのでは。 ・県外出身者が県内に就職しない理由を考えることも重要。	・経営学部では、環境と共生する社会の構築に貢献できる人材の育成や、持続可能な地域経済の発展に貢献することを目指している。 ・入学から卒業まで、一貫した就職支援を行うための体制強化、教員と職員が一体となった適切な進路支援について盛込済であり、今後も学生に寄り添った支援を継続する。	○
8	教育	・実践的な課題解決型学修による課題解決力を育むための教育は、現在でも大学は取り組んでおり、学生としても今後達成される目標だと感じている。	―	―
9	教育・国際交流	・「環境」を強みとする大学として、なぜ社会学部や経済学部ではなく「経営学部」が設置されているのか。公立化前の開設科目を参考に適切なカリキュラムの検討をしてほしい。地域に貢献できる公務員志望者の受験にも役立つ科目の充実にもつながる。 ・グローバル人材の育成のためには、CEFRのB1レベルに加え、更に高い英語力が必要だと思う。 ・海外大学との交流については、回数以上に質の向上についても注力していただきたい。	・鳥取環境大学は、環境情報学部1学部3学科の大学として公設民営方式で2001年に開学し、基本理念である「人と社会と自然の共生」を目指し、多くの卒業生を輩出してきたが、さらに力強い発展を期して公立化し、自然環境の保全と人間の経済活動が調和した持続可能な発展を追及する社会で活躍するためには、環境的な視点と経営的な視点の両方を身に着ける必要があるとの考えのもと、経営学部と環境学部の2学部体制とした。なお、地域や学生のニーズを捉えた教育課程の編成・実施方針の見直しや、学生の進路に関する適切な支援については盛込済であり、必要に応じた対応を行うこととしている。 ・学生の能力に応じた、より高度な英語教育の提供について盛り込むとともに、学生全体の英語力の底上げも引き続き取り組む。	○ ◎ ―
10	研究	・教員の女性比率が数値目標となっているが、性別に関わらず本人の能力により判断されるべきであり、女性にとっても働きやすい環境づくりという観点で明記すべき。	・女性研究者・外国人研究者など全ての者が多様性を尊重され安心して研究に取り組むための支援や環境整備について盛込済であり、引き取組を進めていく。	○
11	国際交流	・学生の英語能力の数値目標があるので、カリキュラムや教員の国際化、学生の英語教育についても記載してはどうか。	・学生の能力に応じた、より高度な英語教育の提供について盛り込むとともに、学生全体の英語力の底上げも引き続き取り組む。	◎
12	入学	・入学選抜方法に県内限定の推薦枠があるが、選抜方法（一般・地域限定）の違いにより、入学後の学修の理解度に差が生じているように感じる。入試方法を継続するなら、学力を補う機会を設ける取り組みが必要。	・多様な学生が充実した学生生活を送られるよう学生の修学等の支援について盛込済であり、今後も学生に寄り添った支援を継続する。	○

13	入学	・県内入学率を数値目標としているが、地域枠は既にあるので、一般枠で県内外の学生に選ばれるような大学の魅力向上が必要だと思う。	・大学の魅力向上や効果的な広報、県内高校との連携強化等の取組について盛込済であり、引き続き大学の価値やブランド力を高め、県内学生から積極的に選ばれる大学を目指す。	○
14	入学	・他大学において早期に優秀な学生の確保をするための取組が進んでいるよう感じる。優秀な学生の確保や、地元学生の確保の取組などをもう少し詳しく記載してはどうか。	・大学の魅力向上や効果的な広報、県内高校との連携強化等の取組について盛込済であり、引き続き大学の価値やブランド力を高め、県内学生から積極的に選ばれる大学を目指す。	○